



普及活動標語

思いを形にあなたのチャレンジ支えます。
応援します。農業普及

みやぎの

6月号

農業普及現場

NEWS LETTER No.184 2022.6

紹介内容 (5/1~5/31)

1. みやぎの農業を担う次代の人材育成と革新技術の活用等による生産基盤の強化

- ① 先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 1
 - 栗原農改：栗原農業士会通常総会・研修会が開催されました！
 - 仙台農改：いちご農家がつくるスイーツを御賞味ください！

- ② 新たな担い手の確保・育成・・ 1
 - 大河原農改：みやぎ農業未来塾「仙南地域の農業紹介講座」を開催
 - 栗原農改：みやぎ農業未来塾（就農準備講座）を開催しました
 - 大崎農改：中山間地域の農地基盤整備事業実施に向けた推進委員会が開催されました
 - 大崎農改：農大生が普及センターを訪問しました

- ③ 先端技術等の推進・普及による農業経営の効率化・省力化支援・・・・・・・・・・・・・・・・ 2
 - 亘理農改：JAみやぎ亘理水稲育苗講習会が開催されました
 - 美里農改：子実用とうもろこし播種実演会が行われました
 - 石巻農改：乾田直播現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの推進会議が行われました
 - 仙台農改：水稲優良品種決定現地調査ほの田植えを行いました
 - 仙台農改：第2回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました

- ④ 園芸産地の育成・強化支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 4
 - 仙台農改：利府町 梨の花が満開です
 - 石巻農改：河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました
 - 石巻農改：そらまめ現地検討会が開催されました
 - 大崎農改：ねぎ生産者の巡回を行いました
 - 気仙沼農改：きく類の露地電照栽培現地試験に取り組んでいます！
 - 登米農改：JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました
 - 美里農改：JA新みやぎ仙台小ねぎ部会現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：りんごの摘果講習会が開催されました
 - 気仙沼農改：クロマツは種・栽培研修会を開催しました
 - 石巻農改：春せりレシピ開発お披露目会が開催されました
 - 栗原農改：きゅうりの出荷査定会と現地検討会が開催されました
 - 亘理農改：岩沼市ほ場の加工用ばれいしょの開花が始まりました
 - 石巻農改：ぶどう栽培講習会が開催されました
 - 登米農改：JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会現地検討会が開催されました
 - 大河原農改：白系とうもろこし栽培講習会を行いました
 - 登米農改：JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催されました

- ⑤ 収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 9
 - 大崎農改：大豆の栽培講習会が開催されました
 - 登米農改：全国和牛能力共進会出品候補牛の登米地区集合指導会が開催されました
 - 栗原農改：一迫水稲採種組合の水稲採種育苗管理巡回が行われました
 - 気仙沼農改：今年も元気に育成牛が放されました。－気仙沼市本吉放牧場－
 - 登米農改：第15回登米市畜産共進会が開催されました
- ⑥ 時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 10
 - 石巻農改：水稲優良品種決定調査の田植えを行いました！
 - 石巻農改：子実用とうもろこしの播種作業が始まりました
 - 気仙沼農改：水稲優良品種決定現地調査ほの田植え作業を行いました
 - 石巻農改：子実用とうもろこしの播種準備をしました
 - 石巻農改：優良な麦種子の生産に向けて

2. 多彩な「なりわい」の創出や多様な人材・機関との連携による持続可能な農業・農村の構築

- ① 地域資源の活用等による地域農業の維持・発展・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12
 - 仙台農改：第51回日本農業賞宮城県表彰式で株式会社仙台秋保醸造所が表彰されました
 - 仙台農改：中山間地域の仙台市秋保野尻地区で、ねぎの定植を行いました
- ② 環境に配慮した持続可能な農業生産・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 13
 - 気仙沼農改：水稲ペースト二段施肥田植機の実演会が開催されました
 - 登米農改：水稲の「グリーンな栽培体系」の検証試験を行っています
 - 仙台農改：水稲ペースト肥料二段施肥実演会が開催されました

1. 人材育成・生産基盤の強化

①先進的経営体等の育成及び経営の安定化・高度化支援

○栗原農業士会通常総会・研修会が開催されました！

令和4年5月10日

栗原農業改良普及センター



令和4年4月22日に宮城県栗原合同庁舎で、令和4年度栗原農業士会通常総会及び研修会が開催されました。

総会終了後に開催された研修会では、普及センターから今年度の普及指導計画の概要について説明しました。

その後、令和3年度全国優良経営体表彰事業において、全国担い手育成総合支援協議会会長賞を受賞した有限会社川口グリーンセンター代表取締役白鳥正文様から、「我が社の取組」と題して講演がありました。講演では、取組んできた輸出米を含む水稻や花き栽培のことのほか、米粉を活用した商品化への思いなどについてお話を頂戴いたしました。

参加者からは、「米粉の可能性をあらためて感じた。」などの声があり、今後も有限会社川口グリーンセンターの活躍が大いに期待される講演内容となりました。

○いちご農家がつくるスイーツを御賞味ください！

令和4年5月23日

仙台農業改良普及センター



株式会社ベリープラネット（代表取締役：深沼陽一、仙台市）は、仙台市のララガーデン長町にいちごスイーツ店「甘熟いちごや燦燦園」を令和4年3月26日にオープンさせました。株式会社ベリープラネットは、山元町のいちご生産法人である株式会社燦燦園がスイーツ販売等を展開する6次産業化の

取組や仙台市内でのいちご栽培を行うために設立した法人です。

「甘熟いちごや燦燦園」はオープンから2か月が過ぎようとしていますが、オープンから5月の大型連休中にも多くのお客様に御来店いただき、「甘熟いちごろシェイク」や「いち氷」、「こしかけいちご大福」や「いちご和さんど」など、鮮やかな赤が目をひく自社のいちごを贅沢に使ったスイーツを御賞味いただいたとのことです。

また、株式会社ベリープラネットでは、仙台市若林区上飯田地区において、いちご栽培を開始し、スイーツの加工販売等も行う予定です。

普及センターでは、栽培技術とともに6次産業化への取組を支援することで、先進的な経営体を育成してまいります。

②新たな担い手の確保・育成

○みやぎ農業未来塾「仙南地域の農業紹介講座」を開催

令和4年5月9日

大河原農業改良普及センター



令和4年度に宮城県農業大学校へ入校した大河原管内出身の学生4名を対象に、みやぎ農業未来塾「仙南地域の農業紹介講座」を4月22日に大河原合同庁舎で開催しました。

塾長からは「本講座で仙南地域の農業について学び、皆様の将来設計に役立てていただきたい。」と挨拶があり、講座では管内農業の現状や普及センターの役割、プロジェクト課題の紹介、新規就農者への支援をテーマに説明しました。

学生は、講座中にもメモをとるなど熱心な姿勢で、飼料価格高騰や米価下落など昨今の農業を取り巻く諸課題への対策などの質問が出されました。また、「今回の話を聞き、農業法人への就職に興味を持った」といった感想も聞かれました。

みやぎ農業未来塾では、これに続きベテラン農業者の元で、栽培技術や農業経営について学習する講座を予定しており、引き続き、新規就農者の参加を呼びかけていきます。

○みやぎ農業未来塾(就農準備講座)を開催しました

令和4年5月10日
栗原農業改良普及センター



令和4年4月22日、宮城県農業大学の1年生4名の出身地域普及センター訪問に併せて、みやぎ農業未来塾(就農準備講座)を開催しました。

はじめに農業改良普及センター職員から、栗原地域の農業の概要や普及センターの仕事、新規就農者支援の概要について学びました。出席した学生はいずれも農家出身で、就農や就職など進路が明確であり、就農への心構えや新規就農者育成総合対策事業の詳細、普及指導員が行う具体的な仕事の内容等について、積極的な質問が出されました。

訪問した学生は就農希望者が多いことから、今後も農業大学と連携して支援していきます。

○農大生が普及センターを訪問しました

令和4年5月16日
大崎農業改良普及センター



令和4年4月22日(金)に、農業大学の学生が普及センターを訪問しました。

自己紹介では、学生の就農に対する熱意が感じられ、これからの農業を支えていく人材として心強く感じました。その後、普及センターの職員から大崎管内の農業の現状や普及センターの役割及び指導計画、新規就農者への支援等に関する情報提供を行いました。学生からは、親の農業経営を引き継ぐ場合の支援事業や普及指導計画の課題設計に関する事など、多くの質問を頂き、職員との活発な情報交換が行われました。

普及センターでは、今後も農業大学の学生に対する活動支援を行っていきます。

○中山間地域の農地整備事業実施に向けた推進委員会が開催されました

令和4年5月11日
大崎農業改良普及センター



令和4年4月20日に大崎市岩出山下真山地区の農地整備事業推進委員会に出席し、令和6年度採択に向けた今後の活動について話し合いました。当地区では関係機関が連携しプロジェクト課題に取り組んでおり、昨年度は「担い手の明確化」や「高収益作物導入」について活動を行いました。

普及センターからは、今年度の活動内容である「担い手を対象にした地域営農計画の策定支援」「法人化支援」「高収益作物に向けた支援」などについて説明しました。

今年も関係機関と連携しながら、農地整備事業を契機とした中山間地域農業の体制づくりに取り組んでいきます。

③先端技術等の推進・普及による経営効率化・省力化

○JAみやぎ亘理水稻育苗講習会が開催されました

令和4年5月2日
亘理農業改良普及センター



JAみやぎ亘理は、令和4年4月20及び21日に、管内6地区で水稻育苗講習会開催し、合計42名の生産者が参加しました。

普及センターは講師として参加し、温度管理や病害対策など、水稻育苗における栽培管理技術や、田植え後の初期管理について説明しました。

また、水稻用一発肥料などのプラスチック被覆殻が海洋に流出することによる環境への影響が懸念されています。その対策として、JA全農では浅水代かきと水尻への捕集ネットの設置を推進しており、JAみやぎ亘理の担当者が協力を呼びかけました。

育苗の状況については、4月9日から12日にかけて高温が続いた影響が心配されましたが、参加者の苗は順調に生育していました。

○子実用とうもろこし播種実演会が行われました 令和4年5月24日 美里農業改良普及センター



涌谷地域農業再生協議会では、国産濃厚飼料として子実用とうもろこしの栽培実証試験の取組みをはじめました。子実用とうもろこしの生産は、飼料価格の高騰に対応するだけでなく、深根性によるほ場の排水性改善や、茎葉のすき込みによる緑肥といった後作への効果も期待されます。

4月21日に、涌谷地域農業再生協議会主催で、2台の真空播種機を用いた播種実演会が関係機関や農家等を対象に開催されました。

真空播種機の利用は、播種間隔の設定や走行速度などの調整が必要ですが、概ね順調に播種することができました。当実演会で播種した子実用とうもろこしの品種は5種類で、今後は品種間の収量性の比較や、作期分散、後作の収量調査等を実施することです。

普及センターでは、子実用とうもろこしの生産など、省力で高収益な転作作物の導入に向けた支援を行っていきます。

○乾田直播現地検討会が開催されました 令和4年5月28日 石巻農業改良普及センター



令和4年5月18日にJ Aいしのまき主催の乾田直播現地検討会が開催され、管内の17農業法人、生産者、関係機関を含む50人が参加しました。検討会では、東北農業研究センター研究推進部の技術適応研究チーム長を講師に、ほ場巡回を通し、イネの苗立ち状況、雑草発生状況等を確認した後、今後の管理について検討を行いました。

今年度は、当所の乾田直播栽培展示ほを含む石巻市、東松島市4か所を巡回しました。

各ほ場のイネの苗成ちは、概ね㎡当たり100本以上を確保していました。また、雑草が散見されたほ場では、発生している雑草の葉齢と草種に対応した除草剤の効果的使用方法についての提案があり、参加者が耳を傾けていました。

参加した生産法人の中には、独自に工夫を凝らし、ポールにあらかじめ1mの長さや条間幅の印をつけたものを持参して、巡回したほ場の苗成ち等を確認していました。

当所では、管内の春作業労働ピークの分散に有効な乾田直播栽培技術の向上と普及のため、乾田直播栽培の生育状況の把握と情報発信を行っていきます。

○スマート農業技術の開発・実証プロジェクトの推進会議が行われました 令和4年5月31日 石巻農業改良普及センター



令和4年5月19日に令和3年度スマート農業技術の開発・実証プロジェクト「パブリカスマート商流実現と他社間連携による安定出荷体制の構築」の令和4年度第1回推進会議が石巻合同庁舎にて開催されました。

取組機関は、石巻市でパブリカを生産する(株)デ・リーフデ北上、(株)デ・リーフデ大川及び栗原市の(株)ベジ・ドリーム栗原、短期収穫予測を行う農業用ロボットの開発を担う企業や、生産環境から出荷体制まで一括したデータ管理ができるプラットフォームを作成するIT企業、宮城大学や(独)農研機構西日本農研センター等17組織が宮城パブリカスマート商流コンソーシアムを結成して、プロジェクトに取り組んでいます。

推進会議の中では、園芸推進課から昨年度の成果と今年度の実証計画、各構成員から実証内容についての説明がありました。

午後からはデ・リーフデ北上での現地視察も行われました。阿部総務部長から会社設立から収量増加の取組等についての説明の後、収穫予測を行うロボットが稼働する様子や栽培状況について見学が行われました。

現地視察に参加した構成員は、実際に稼働する様子を眺めながら盛んに意見交換を行っていました。

普及センターでは、先端技術を用いた高度な施設園芸の取組に対し、今後とも支援を行います。

※当プロジェクトは、農林水産省「スマート農業技術の開発・実証プロジェクト(課題番号:施3B1商)」(事業主体:国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構)の支援により実施しております。

○水稲優良品種決定現地調査ほの田植えを行いました

令和4年5月31日

仙台農業改良普及センター



宮城県では、本県の気候や土壌等に適した水稲の優良品種を選定するため、有望な水稲品種(種類)の収量、品質や食味等の試験を行っており、普及センターでは、地域の適応性を調査するための現地試験を行っております。

仙台普及センターでは、仙台市内の1か所で現地試験を行っており、令和4年5月12日、担当農家の協力を得て田植えを行いました。今年は4種類の苗を植付けするため、種類が混じらないよう細心の注意を払いながら作業が行われ、担当農家も緊張した面持ちでした。作業当日は晴天に恵まれ、2時間程度で無事終了しました。

今後は生育経過を観察するとともに、出穂期などの生育ステージの確認や収量、品質などの調査を行い、優良品種の選定に必要なデータを収集していきます。

○第2回水稲乾田直播栽培勉強会を開催しました

令和4年5月31日

仙台農業改良普及センター



当普及センターでは、今年度から「水稲乾田直播栽培の技術定着による収量向上」をプロジェクト課題

に位置付け、支援をしています。「水稲乾田直播栽培勉強会」を定期開催しており、令和4年5月17日に2回目を開催しました。

今回は雑草防除と水管理をテーマに開催し、乾田直播栽培に長年取り組んでいる農事組合法人仙台中央アグリサービスの代表から今年行っている雑草防除についてお話いただいた後、東北農業研究センターから雑草防除のポイントについて詳しく御説明いただきました。

また、勉強会参加者のほ場に実際にあった雑草の防除方法や、除草剤の組合せ、入水のタイミングに関する悩みや疑問等について、活発に意見や質問が交わされ、有意義な時間となりました。

普及センターでは、今後とも水稲乾田直播栽培の推進に努めてまいります。

④園芸産地の育成・強化支援

○利府町 梨の花が満開です

令和4年5月6日

仙台農業改良普及センター



利府町は県内有数の梨生産地です。今年は、発芽が若干遅めでしたが、その後は、天候に恵まれ、当普及センターの梨の生育調査ほ(品種:幸水、あきづき)では、ほぼ平年並みの4月24日に満開期を迎えました。

現在、梨園では、たくさんのミツバチが元気に飛び回っている様子が見られます。また、梨の受粉を確実にを行うため、生産者は梨の人工授粉も行います。当地域では、花粉を採取するため、4月中旬頃から受粉用品種の花(生食用品種より一足先に花が咲きます)が生産者からJAに持ち込まれ、JA職員は花粉採取の作業を行います。

普及センターでは、定期的な巡回指導や各地域で開催される現地研修会等で技術指導を行い、当地域の高品質な梨の安定生産を支援していきます。

○河北ミニトマト部会現地検討会が開催されました

令和4年5月12日
石巻農業改良普及センター



令和4年4月19日に石巻市河北地区にてJ Aいしのみき主催のミニトマト部会河北北上支部の現地検討会が開催されました。7人の生産者が参加し、各生産者のほ場を巡回し検討を行いました。生産者ごとに育苗中や定植後の生育ステージに合わせ、現状とこれからの栽培管理を確認しました。

普及センターからは、これからの時期の朝晩の低温と昼間の高温に注意して温度管理することや、気温の上昇に伴って発生する病害虫への防除を行うことを説明しました。普及センターではこれからも巡回などを行いながら、栽培管理の支援を行います。

○そらまめ現地検討会が開催されました

令和4年5月12日
石巻農業改良普及センター



令和4年4月27日にJ Aいしのみき主催のそらまめの現地検討会が開催されました。7人の生産者が参加し、法人と各生産者のほ場を巡回し検討を行いました。圃場の欠株も少なく、病害虫の発生がほとんど見られませんでした。

普及センターからは、赤色斑点病などの病害虫の概要と対策として農薬情報、これからの気象情報を掲載した資料を配付しました。これから気温上昇が見込まれるため、病害虫の防除を引き続き行うように指導を行いました。農薬についてはRACコードと、効果的なローテーション散布の説明を行いました。

普及センターではこれからも巡回等を行いながら、栽培管理の支援を行います。

○ねぎ生産者の巡回を行いました

令和4年5月12日
大崎業改良普及センター

当普及センターでは、加美・色麻地域のねぎ生産者を対象に、周年を通じたねぎの高品質安定生産、担い手の技術支援を通じた産地強化を目的に、令和4年度からプロジェクト課題「ねぎ産地における冬越し囲い栽培の安定化と環境にやさしい栽培技術の取組拡大」に取り組んでいます。

管内では周年出荷のために、積雪により収穫が困難になる11月中旬にねぎを抜き取ってハウスに埋め戻し、品質を維持しながら出荷する冬越し囲い栽培が行われています。今回は、囲いねぎを実施予定の生産者4名を巡回し、品種の選定や施肥の方法、囲い方について聞き取りを行いました。話し合いの中で、ほ場での病害虫管理と有機肥料を用いた根張りの改善により、品質を向上させることが必要であるという課題が見つかりました。

今後も定期巡回を行い、技術支援を通して、冬期のねぎの品質の向上を図っていきます。

○きく類の露地電照栽培現地試験に取り組んでいます！

令和4年5月12日
気仙沼農業改良普及センター



令和4年4月26日に南三陸町の株式会社小野花匠園（おのかしょうえん）露地ほ場で、宮城県農業・園芸総合研究所花きチーム（以下、農園研）と、きく類の露地電照栽培現地試験のための定植を行いました。

電照栽培は、主に施設栽培で花の開花時期を調節するために用いられますが、一部の生産者は、きく類の需要期である8月お盆、9月お彼岸に合わせて開花させ、安定出荷するために露地栽培でも電照栽培に取り組んでいます。

南三陸町の小野花匠園でも、露地栽培のきく類を安定出荷するために、数年前から露地電照栽培に取り組んでいることから、技術の高度化に向けて農園研の現地試験ほ場として選定されました。

現地試験では、輪ぎく2品種、小ぎく6品種、スプレーぎく5品種の合計13品種に赤色LEDランプで電照を行い、需要期に安定して出荷できる品種を選抜することを目的としています。

普及センターでは、農園研との連携調査研究に位置づけ、当地域の電照栽培に適した品種選抜を支援していきます。

○JAみやぎ登米そらまめ部会現地検討会が開催されました

令和4年5月16日

登米農業改良普及センター



令和4年5月11日に、JAみやぎ登米そらまめ部会主催の現地検討会が開催され、部会員16名が参加しました。

普及センターからは、発生している病害虫などについて確認を行なったほか、病害虫が発生しやすい天候や時期を説明し、より効果的に防除を行えるように、管理ポイントを確認しました。

また、全農みやぎ園芸・生産振興課からは、今年の市場の動向や他産地の出荷量などについて説明がありました。

登米地域のそらまめは、4月末の積雪にも負けず元気に育ち、開花期を迎えています。5月末から6月にかけて、おいしいそらまめの出荷が期待されています。

○JA新みやぎ仙台小ねぎ部会現地検討会が開催されました

令和4年5月16日

美里農業改良普及センター



4月26日（火）に仙台小ねぎ部会の現地検討会が開催されました。現在の主力品種の種子の供給不足が昨年懸念されており、今回は種苗メーカーの育種担当者を招き代替候補品種の特性や高温期に向けた管理について研修が行われました。

会場となった生産者のハウスでは、代替候補の品種が作付けされており、生育ステージごとの灌水管管理や追肥のタイミングなど、コロナ禍で部会員が集まる機会が少なく久しぶりの検討会だったこともあり熱心に意見交換が行われました。

普及センターからは、各部会員の土壌分析結果を基に有機物施用の重要性について情報提供しました。

た。JAで生産している廃菌床堆肥の積極的な施用と、長期連作により全窒素が増加し炭素率が低下している土壌には緑肥の作付けを勧めています。

普及センターでは、重点活動として小ねぎの連作障害対策に取り組んでおり、引き続き土作りなどの技術支援を行っていきます。

○りんごの摘果講習会が開催されました

令和4年5月24日

巨理農業改良普及センター



今年産のりんご生育状況は、開花期間に降雪があったものの、今のところ結実数・果実肥大とも順調に推移しており、現在予備摘果（一輪摘果）作業が各園地で進められています。

そうした中、JAみやぎ巨理主催でりんごの摘果講習会が2地区（逢隈、吉田）で開催され、当普及センター果樹担当職員が講師として対応しました。

摘果の目的や作業時期、摘果する果実の状態などを解説した後、実技講習を行いました。

近年りんご栽培を始めた生産者を中心に、腋果さうの判別や短果枝・中果枝・長果枝の判別などについて、活発な質疑応答が行われました。

当普及センターでは、今後も管内りんご産地の支援を行っていきます。

○クロマツは種・栽培研修会を開催しました 令和4年5月 24日 気仙沼農業改良普及センター



令和4年5月18日、東松島市大曲のほ場を会場に、宮城県園芸推進課と気仙沼農業改良普及センターの主催によるクロマツは種・栽培研修会を開催しました。

枝もの用クロマツ生産者を増やすことを目的に呼びかけたところ、興味のある農業者22名と県等関係者22名の合計44名が参加しました。研修会では、クロマツ栽培に適したほ場、は種後の鳥害対策、雑草防除対策の説明や、は種作業の実演を行いました。

参加者からは、耕作放棄地での栽培の可否や、除草方法、収益性、年間労働力など様々な質問が寄せられ、栽培に取り組んでいる(株)南三陸 PinePro (パインプロ)の後藤代表や構成員から事例を交えながら回答してもらい、参加者は納得した様子でした。

普及センターでは、今後もクロマツの生産を広く周知するため、現地検討会などを開催しながらクロマツ生産を支援していきます。

○春せりレシピ開発お披露目会が開催されました 令和4年5月 24日 石巻農業改良普及センター



令和4年5月17日にJAいしのまき本店で春せりレシピ開発お披露目会が開催されました。レシピ開発者のレストランヒロミチの小玉弘道シェフ、JAいしのまきせり部会員、名取市のせり生産者、JAい

しのまき、亶理農業改良普及センター、農政部食産業振興課など19人が参加しました。

宮城県でブランド化を推進しているせりの中でも、早春に芽吹いた柔らかい茎葉を食べる春せりの認知を拡大するべく、春せりを使ったレシピ開発が行われました。小玉シェフは「せりかけご飯」や「春せりの豚バラ肉巻き焼き」など4つのレシピを開発され、参加者はそれぞれのレシピの説明を聞きながら試食を行いました。

春せりの消費拡大に向けてインターネットの特設ページの作成や、動画レシピとしてSNSで発信される予定です。

石巻市河北地区特産のGI登録された河北せりの春せりは、4月から5月中旬が出荷時期となっています。

普及センターでは引き続き、河北せりの生産技術指導や販売促進活動への支援を行います。

○きゅうりの出荷査定会と現地検討会が開催されました 令和4年5月 26日 栗原農業改良普及センター



令和4年5月20日(金)、JA新みやぎ栗っこきゅうり部会の出荷査定会が栗原市志波姫の野菜集荷場、現地検討会が栗原市志波姫のほ場で開催され、部会員13名、JA新みやぎ栗っこいわでやま統括営農センター、JA全農みやぎ、(株)石巻青果、種苗メーカー及び普及センターの担当者が出席しました。

出荷査定会では、きゅうりの販売情勢についてJA全農みやぎと(株)石巻青果から説明があった後、当日出荷されたきゅうりを見ながら出荷規格を確認し、長さや曲がりの程度、箱詰め方法などについて、活発な意見交換が行われました。

現地検討会では、加温半促成と雨よけ栽培のハウス計3棟を見て回り、整枝方法や防除のタイミングを検討しました。その後、種苗メーカーから天候に合わせた今後の管理について、普及センターから病害虫防除のポイントと土壌分析について、説明を行いました。

普及センターでは、JA新みやぎ栗っこのきゅうりの安定生産に向けて、今後も継続して支援していきます。

○岩沼市ほ場の加工用ばれいしょの開花が始まりました

令和4年5月30日

巨理農業改良普及センター



岩沼市の農業法人では、令和3年度から大区画水田で加工用ばれいしょ栽培を始め、今年度も引き続き取り組んでいます。

4月3日に早生品種のオホーツクチップを植え付けたほ場では、5月20日頃から開花が始まっており、5月26日現在での開花割合は10%程度でした。今後は、7月下旬から8月上旬にかけて始まる収穫に向けて、病害虫防除を行っていきます。

本県では、大区画ほ場を活用した露地園芸を推進しており、普及センターでは、関係機関と連携しながら、加工用ばれいしょの安定生産技術の確立に向けた支援を行ってまいります。

○ぶどう栽培講習会が開催されました

令和4年5月30日

石巻農業改良普及センター



令和4年5月24日、25日にぶどう栽培講習会がJ Aいしのまき主催でぶどう出荷者を対象に3か所の園地で開催されました。

3会場ともシャインマスカットの短梢栽培で、作業性に優れた整枝となっており、品質の高い果実生産が期待されました。

普及センターからは、シャインマスカットの5月、6月の管理や、新梢管理、花穂整形、ジベレリン処理、摘粒等について説明と実演を行いました。また、前年は梅雨明けが早く、日焼け果が発生したことから、本年は梅雨明けに注意し、ハウスの換気や定期的なかん水を呼びかけました。

5月下旬の新梢管理から6月下旬の袋かけまでは手の抜けない作業が続きます。収穫は9月下旬頃から始まりますので、是非、地元の皮ごと食べられる甘いシャインマスカットを御賞味ください。

シャインマスカットは、人気の高い果実であり、栽培者の増加が期待されています。普及センターでは、

今後とも栽培技術の支援を行っていきます。

○JAみやぎ登米米山支部タマネギ部会現地検討会が開催されました

令和4年5月31日

登米農業改良普及センター



J Aみやぎ登米米山支部タマネギ部会では加工用たまねぎの生産に取り組んでいます。部会では、6月末からの出荷に向け、令和4年5月17日に現地検討会を開催しました。現地検討会では、普及センターから、近年問題となっているべと病について、ほ場での発生確認や収穫までの対策について説明しました。参加した生産者からは、「次の作に向け、収穫後も病気の対策を意識した管理が重要。気を抜かず丁寧な管理をしたい。」との声がよせられました。

普及センターでは、高品質な加工用のたまねぎの安定生産に向け、栽培技術の向上に関する取り組みを支援していきます。

○白系とうもろこし栽培講習会を行いました

令和4年5月31日

大河原農業改良普及センター



白石市では、「新白石三白」として‘ピュアホワイト’などの白系とうもろこしの栽培を進めています。今回の講習会では、‘ピュアホワイト’の特徴にあわせた畦の間隔など、白系とうもろこしの栽培方法について農家の皆さんにお話しました。

農家の他にもしろいし市場担当者も複数名出席しており、作り手だけではなく売り手側も白系とうもろこしの栽培について知識を深めました。

質疑応答も活発に行われ、出席者の白系とうもろこしへの興味の高さが伺えました。

今年度作付けした白系とうもろこしの販売開始は7月頃とのことです。

○JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催
されました
令和4年5月31日
登米農業改良普及センター



令和4年5月26日に、JAみやぎ登米キャベツ部会現地検討会が開催され、部会員7人が参加しました。普及センターが農薬の使用上の注意点や、効果的な防除方法などについて確認を行ったのち、登米市豊里町のほ場で現地検討を行いました。現地検討では、管理ポイントや品種の選定などについて、盛んな質疑が行われ、生産者同士で経験や意見を共有していました。

管内では既にキャベツの収穫が始まっており、おいしい登米産のキャベツが食卓に届けられています。

⑤収益性の高い水田農業・畜産経営の展開支援

○大豆の栽培講習会が開催されました
令和4年5月6日
大崎農業改良普及センター



令和4年4月25日、JA加美よつばで大豆栽培講習会が開催されました。講習会には多くの生産者が参加し、大豆の栽培技術や直接支払交付金、大豆共済制度等の説明が行われました。

普及センターからは、大豆の栽培上のポイントについて説明しました。令和4年産大豆の作付けに向けて、土づくりや排水対策徹底の呼びかけ、品種ごとの栽培の特徴、省力化技術の紹介等を行いました。また、令和4年から宮城県の優良品種に採用された「すずみのり」や新たな排水改良技術であるトラクター装着型補助暗きょ施工機の説明も行い、生産者からは積極的に質問が寄せられました。

大崎普及センター管内は、大豆の栽培面積が県全体の約18%を占め、県内最大の大豆産地となっています。普及センターでは大豆の高品質安定生産に向けて引き続き支援してまいります。

○全国和牛能力共進会出品候補牛の登米地区集合指導会が開催されました
令和4年5月10日
登米農業改良普及センター



今年10月に開催される全国和牛能力共進会鹿児島大会に向け、出品候補牛に対する集合指導会が、令和4年4月21日（木）に登米市南方集出荷場を会場に行われ、候補牛の飼養者や関係者が多数参加しました。

「全国和牛能力共進会」は、5年に一度全国の優秀な和牛を一堂に集めて、改良の成果やその優秀性を競う大会です。平成29年には、宮城県で開催され、当県出品牛が優秀な成績を収めています。

指導会は、出品区分毎に、第2区（若雌の1）、第4区（繁殖雌牛群）、第6区（種牛）のそれぞれの候補牛計23頭を対象に実施されました。

当日は、登米市内のトップクラスの和牛農家4名が指導員となり、牛の仕上がり状況を確認し、体形の測定結果や各部位の審査結果を基に、今後の飼養管理について細かい指導が行われました。

飼養者からは、指導員のアドバイスを参考にして、引き続き管理を徹底し、県の代表牛を目指していきたいとの声が聞かれました。

今後、5月の登米地区選抜会、7月の県最終選考会を経て、当県の代表牛が決定されます。全国和牛能力共進会への出品を目指し、候補牛飼養者の日々の取り組みが続きます。

○一迫水稻採種組合の水稻採種育苗管理巡回が行われました
令和4年5月10日
栗原農業改良普及センター



令和4年4月27日に一迫水稻採種組合の育苗管理巡回が行われました。本巡回では、採種組合員全員の育苗ハウスを組合役員、JA、普及センター担当者が巡回し、育苗状況の確認、播種日、田植予定日の聞き

取りや育苗箱枚数の確認を行いました。

本年は播種後、日中の高温と朝晩の低温により、温度管理が非常に難しい日が続きましたが、組合員の丁寧な温度管理により、多くの苗の生育状況は良好でした。巡回後、普及センターから、田植え時の留意点や農作業安全について指導を行いました。出席した組合員からは、「今年も良い種子を生産できるよう、努力していきたい」との声が聞かれました。

○今年も元気に育成牛が放されました。－気仙沼市本吉放牧場－

令和4年5月19日

気仙沼農業改良普及センター



気仙沼市本吉放牧場は昭和44年の開牧以来、福島第一原子力発電所事故に対応した草地除染の取組時期を除き放牧事業を実施してきました。今年度も地域の酪農家から預託された約70頭の乳用牛が、放牧地に元気に放されました。毎年行われていた入牧式・獣魂祭が新型コロナウイルス感染症の蔓延防止のため、今年も中止となりましたが、管理主体である農事組合法人モーランドでは、広い放牧場で牛が運動することにより、預託農家の期待に応えられる足腰の丈夫な牛となって農家のもとへ返せるよう大事に管理したいと意気込んでいます。

なお、放牧場に併設されている『モーランド・本吉』には、動物とのふれあいや乳製品加工体験施設、美味しい牛乳が飲めるレストランもあり、気仙沼・本吉地域の酪農・畜産をPRする拠点施設となっています。

○第15回登米市畜産共進会が開催されました

令和4年5月31日

登米農業改良普及センター



今年10月に開催される全国和牛能力共進会鹿児島大会（全共）に向け、登米地区の代表牛を選定するための共進会が、令和4年5月20日（金）に登米市南方集出荷場を会場に行われ、延べ36頭が出品されました。

どの牛も発育良好で体形のバランスも優れており、甲乙付け難い大会となりましたが、審査の結果、16頭の代表牛が選抜されました。

今回の全共では「特別区（高校及び農業大学校の部）」が新たに設けられ、登米地区からは登米総合産業高校の「さくらば23号」が全共への出品をめざしています。今回の共進会ではこの牛の展示出品と口頭での取組発表が行われ、高校生の牛への愛情と全共に対する熱意が伝わってきました。

今回選抜された登米地区の代表牛は、今後さらに飼養管理や調教に磨きをかけ、7月8日、9日に開催される宮城県最終選考会に臨みます。

⑥時代のニーズに対応した農畜産物の安定供給支援

○水稻優良品種決定調査の田植えを行いました！

令和4年5月18日

石巻農業改良普及センター



令和4年5月11日に水稻優良品種決定調査ほの田植えを行いました。

優良品種決定調査とは宮城県の気象に適した優良な品種を決定するため、今後普及を検討する新品種候補系統を現地にて栽培し、各特性を県内9か所で調査するものです。

今年、当センターで調査する品種候補系統は、東北235号、東北239号、東北238号の3系統になります。

普及センターではこれらについて、優良品種として有望であるか調査を行います。

これらの中から優良品種が選定されれば、近い将来皆さんの食卓に並ぶ日が来るかもしれません！

本調査は東松島市の農業法人（株）ばるファーム大曲の御協力をいただいております。

○子実用とうもろこしの播種作業が始まりました
令和4年5月18日
石巻農業改良普及センター



令和4年5月10日に東松島市の有限会社「アグリードなるせ」において、子実用とうもろこしの播種が行われました。

子実用とうもろこしは、国産飼料自給率の向上や耕畜連携を促進できる新たな土地利用型作物として注目されています。「アグリードなるせ」では、昨年度1haだった作付面積を今年度は10haに増やして取り組みます。

当日は好天に恵まれ、自動操舵機能がついたトラクタに真空播種機を装着して、10a当たり7,500粒の種子を、9km/s弱の速度で深さ4cmの位置にまいていきました。播種後は、出芽率を向上させるために、ケンブリッジローラーによる鎮圧を行っていました。収穫後の生産物は、飼料会社に出荷する予定となっています。

当普及センターでは、管内の先行事例として生育状況を観察していく予定にしています。

○水稻優良品種決定現地調査ほの田植え作業を行いました
令和4年5月19日
気仙沼農業改良普及センター



宮城県の水稲作付面積は約6万5千ha（令和3年産）と、全国でも北海道、新潟県、秋田県に次いで4番目の規模となっています。このように、本県農業の

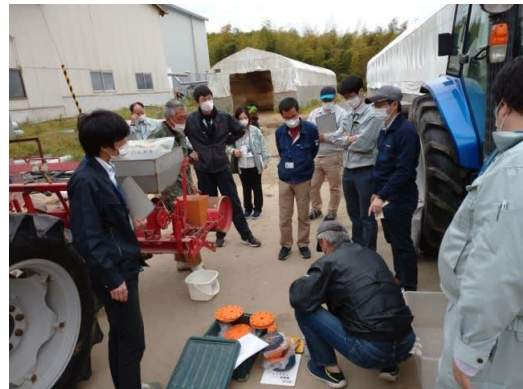
中で重要な位置を占めているため、食のスタイルの変化による需要の多様化、環境の変化などに応じ、県内での栽培に適した品種を選定していく必要があります。

このため、宮城県では、県内で推進する主要農作物（稲・麦類・大豆）の優良品種（優良品種）を決定しています。その選定のためには、実際にその品種の栽培特性を県内各地で確認する必要があるため、試験場のほか各普及センター管内にも栽培ほ場を設置し、連携して調査を実施しています。

本年度は令和4年5月16日に、現地調査ほ場で4品種の田植え作業を行いました。今後、病害虫発生状況、生育量、生育ステージや収量・品質を基準品種の「ひとめぼれ」と比較しながら、その有用性を判定していきます。

宮城県では、現地の農家の皆様と協力しながら、時代と地域に適した品種の選定を行っていきます。

○子実用とうもろこしの播種準備をしました
令和4年5月26日
石巻農業改良普及センター



令和4年5月17日に石巻市桃生の株式会社「入沢ファーム」において、子実用とうもろこしの播種準備が行われ、（国研）農研機構東北農業研究センター、東部地方振興事務所、当普及センター、JAいしのまきや桃生営農センターの関係者ら約15人が集まりました。

JAいしのまきでは、今年度新たな転作品目として注目されている子実用とうもろこしの実証試験を2法人で行う予定となっており、「入沢ファーム」はその一つとなっています。

当日は、（国研）農研機構の篠遠研究員らのアドバイスを受けながら、播種機の設定の検討を行いました。準備された種子は鳥害回避のための忌避剤などがまだ粉衣されていなかったことから、粉衣後の種子の大きさや当日の播種機の作業速度などを想定しながら、播種機の目皿やミッションギヤの種類、実証試験ほ場の状態等を検討しました。播種は、来週の5月25日を予定しています。

当普及センターでは、2法人の生育観察や生育調査を行い、地域の転作品目としての可能性を検討していく予定です。

○優良な麦種子の生産に向けて
令和4年5月31日
石巻農業改良普及センター



令和4年5月31日に管内の大麦採種ほ場のほ場審査を行いました。ほ場審査は、出穂期と出穂後から3週間ほど経過した糊熟期の2回行われますが、今回は糊熟期の審査になります。JAいしのまきや営農センター職員、栽培者である農業法人、審査員である当普及センター職員計8人が集まり、栽培管理状況や異品種の混入がないか、病害虫が基準値以上に発生していないか等について全てのほ場を確認しました。当日は、小雨が降る中での審査となりましたが、全ほ場が合格となりました。大麦は、これから成熟期を迎え、黄金色となり、6月上旬には収穫期を迎えます。

当普及センターでは、麦種子の栽培指導や審査を行い、優良種子の生産を支援していきます。

2. 持続可能な農業・農村の構築

①地域資源の活用等による地域農業の維持・発展

○第51回日本農業賞宮城県表彰式で株式会社仙台秋保醸造所が表彰されました
令和4年5月24日
仙台農業改良普及センター



仙台市太白区秋保の株式会社仙台秋保醸造所が、第51回日本農業賞「食の架け橋の部」で優秀賞を受賞し、5月16日(月)にホテルモントレ仙台で県内受賞者の表彰式が行われました。

日本農業賞は、日本放送協会(NHK)及び一般社団法人全国農業協同組合中央会、都道府県農業協同組合中央会が主催し、「食の架け橋の部」は、農業者と消費者を結ぶ優れた活動や、未来の豊かな生き方・地

域づくりへのヒントとなる食や農の活動を行っている個人や団体を表彰しています。

表彰式では、株式会社仙台秋保醸造所代表の毛利親房氏から、「ひと・地域・文化・産業をつなぎ、はぐくむワイナリーづくり」と題して、東日本大震災で途絶えた宮城のワイン産業復興と地域再生の思い、ぶどう栽培やワイナリーの担い手育成、農福連携の取組、秋保地域及び東北全体を盛り立てる様々なイベントの開催や今後の取組についての活動報告がありました。

今後もワイナリー経営を通じて様々な人や資源を結びつけ、豊かな地域社会づくりに大きく貢献されることを期待いたします。受賞おめでとうございました!

○中山間地域の仙台市秋保野尻地区で、ねぎの定植を行いました
令和4年5月27日
仙台農業改良普及センター



仙台市太白区秋保野尻地区は、中山間地域で人口減少や農業者の高齢化が著しく、荒廃農地の増加や野生鳥獣被害の拡大等が懸念されており、条件不利地域における農業生産活動を継続するため、農地整備事業の導入が予定されています。それに伴って、地域特性に応じた基盤整備や担い手への農地集積・集約化を進めながら、農業生産の効率化と高収益化が欠かせません。

秋保野尻地区では、園芸作物の導入等による経営の複合化や高収益化を図るため、ねぎやにんにく等の導入が検討されており、令和4年5月21日にねぎの定植を行いました。ねぎは今年で2年目の試作となりますが、仙台市の支援事業を活用し、施肥方法や病害虫防除方法等の検討による収益向上を実証することとしています。

実証ほ場は、「野尻交流カフェばんどころ」の近くにあることから、これらの取組が、農業・農村の有する多面的機能を発揮しながら、農村の維持と活性化にも繋がることが期待されます。

普及センターでは、農村における人口減少に対応しながら魅力ある地域を維持していくため、地域農業の中心的な担い手を育成してまいります。

②環境に配慮した持続可能な農業生産

○水稲ペースト二段施肥田植機の実演会が開催されました

令和4年5月13日

気仙沼農業改良普及センター



水稲栽培においては、省力的で肥料利用効率の高い緩効性肥料（プラスチック資材による被覆肥料）を配合した複合肥料が普及してきました。しかし、使用後の被覆材（プラスチック資材）が河川を通じて海洋に流出することが新たな問題として認識されるようになってきています。

この海洋プラスチック問題の解決に向けて、気仙沼市の株式会社階上生産組合では、ペースト2段階施肥の実証試験を行うこととし、5月11日に計90a(30a×3筆)の田植え作業を実施しました。本技術は、ペースト状の肥料を移植時に2つの異なる深さで2段階施肥することにより、緩効性肥料と同様に肥料の効果が現れる時期を調節するものです。

これにより、肥料の被覆材削減だけでなく、肥料補給作業の軽労化、雨天時も同様に作業できることによる計画作業の促進などといった利点も期待されます。

実証試験は新みやぎ農業協同組合、片倉コープアグリ株式会社が主体となっており、当地域での適用性確認に向け、今後は生育や収量・品質に関する調査が行われる予定です。

○水稲の「グリーンな栽培体系」の検証試験を行っています

令和4年5月26日

登米農業改良普及センター



国が策定した「みどりの食料システム戦略」を進めるため、環境配慮や省力化をより進めた「グリーンな作物栽培体系」を検証する事業が、今年度、全国各地で展開されます。

登米普及センター管内では、JAみやぎ登米稲作部会連絡協議会が主体となって水稲で実施することとなり、5月12日から21日にかけて、協力農家のほ場にて田植えが行われました。

管内では、化学肥料を節減するため、肥効率の良いプラスチック被覆肥料が主に使われていますが、近年、プラスチックの環境中での残留や海洋流出が問題となってきたことから、これに頼らない栽培体系を模索することになりました。具体的には、田植え時に土中にペースト状肥料を施用する技術に置き換え、プラスチックコート肥料の使用量を削減します。

併せて、温室効果ガスであるメタンの水田からの放出量を削減するための中干し期間延長と、ドローンによる追肥作業の省力化に取り組みます。

普及センターでは、JAみやぎ登米とともに、この新しい栽培体系の検証を進めてまいります。

○水稲ペースト肥料二段施肥実演会が開催されました

令和4年5月26日

仙台農業改良普及センター



現在、水稲肥料由来のマイクロプラスチック（被覆肥料）の海洋流出が問題となっており、これに対する環境負荷低減技術への関心が高まっています。

このような中、令和4年5月6日、仙台市内において肥料メーカーによる「水稲ペースト肥料二段施肥実演会」が開催され、生産者や農協、農機メーカーなど関係機関が参加しました。

この技術は、2段に施肥することで肥料の効果が持続することから、被覆肥料の代替として期待されているものです。田植えと同時に液状の「ペースト肥料」を稲の株元に沿って施肥しますが、今回の実演会では、施肥位置を田面から「3cm下」と「9cm下」の2段になるよう田植機を調整して田植えが行われ、その作業状況を確認し、意見交換を行いました。

普及センターでは、「生産力の向上と持続性の両立」に向けた取組を推進していることから、今後も水稲の生育状況を確認するなど当該技術の成果を注視していきたいと考えています。

普及指導員が県内9か所の普及センターで、農業者を支援しています。

<大河原>
〒989-1243
大河原町字南 129-1
TEL:0224-53-3519

<亙理>
〒989-2301
亙理町逢隈中泉字本木9
TEL:0223-34-1141

<仙台>
〒981-0914
仙台市青葉区堤通雨宮町4-17
TEL:022-275-8320

<大崎>
〒989-6117
大崎市古川旭四丁目1-1
TEL:0229-91-0727

<美里>
〒987-0005
美里町北浦字笹館5
TEL:0229-32-3115

<栗原>
〒987-2251
栗原市築館藤木5-1
TEL:0228-22-9404

<登米>
〒987-0511
登米市迫町佐沼字西佐沼 150-5
TEL:0220-22-8603

<石巻>
〒986-0850
石巻市あゆみ野5-7
TEL:0225-95-7612

<気仙沼>
〒988-0181
気仙沼市赤岩杉ノ沢 47-6
TEL:0226-25-8068



***各農業改良普及センターには、「地域の食と農の相談窓口」を設置しております。食や農に関して知りたいことがありましたら、上記連絡先にお問い合わせください。**

みやぎの農業普及現場 NEWS LETTER No.184

発行日:2022年6月24日

発行:宮城県農政部農業振興課

編集:宮城県農政部農業振興課普及支援班

TEL:022-211-2837 FAX:022-211-2839

E-mail : gbfs@pref.miyagi.lg.jp